

オリジナルペダルを追う

人間が自転車と接するポイント「ハンドル」「サドル」「ペダル」の3つの「ル」。乗り手と結ばれるパーツだけに形状にも正解が見えず、開発にも奥深さがあります。踏みつけられ回され続ける過酷な運命にあるペダルは、他の「ル」からすると、特にビンディングタイプでなければ扱いもラフな印象があり、開発も後回しになりがちなのかもしれません。

サンエスオリジナルペダルの幕開けは、20 年程前、MTB から進化してきたフラット系ペダルを背景に、ロードバイクが激増し始めて考えたのが Dixna(ディズナ) ブランド最初のペダル「ロード W ペダル」でした。



▲ロード系フラットペダル

「ロード W ペダル」のコンセプトは、“ロードでも気軽に乗れるスマートなフラットペダルが欲しい”でした。そもそもロードにフラットペダル、との着眼自体が新鮮に捉えられたようです。当時あまり無かった、踏み面を小さく、薄くするなど形状を追求し、シールドベアリングの採用やネジピンも低く設定、スムーズな回転と靴底を傷めにくいなどの配慮を施し、ジャンルに捉われずに今でも人気の定番モデルとなっています。



▲足裏 = フットプリントデザイン

2005 年「自転車をスニーカー感覚で履きこなす ... でもたまにはクリップ (SPD ビンディング) もいいかな ...」とのイメージからデザインしたのが「フットプリントペダル」。踏み面積は「ロード W ペダル」を基本としながら、フラット面はまさにリアルな足裏形状に沿うようデザインし、裏面は SPD を配置する 2in1 スタイル。他には無いデザインがわかりやすく、製造を担当してくれた工場から海外販売用にセカンドモデルのデザインを依頼され生まれたのが「フットプリントスポットペダル」や「FP スポットクリップレスペダル」「FP ラバークリップレスペダル」などで、初期モデルから 30% 程度踏み面積を減らしたシリーズとなりました。フットプリントデザインの中でもユニークなのが天秤スタイルの「リブラペダル」(Vol.15 にて掲載) とフラット面と LOOK KE0 (ビンディング) 面の 2in1 が画期的な「FP ルックペダル」です。

※写真掲載ペダルには完売終了のモデルとカラーが含まれています。



▲MTB 系フラットペダル

※掲載モデルは完売終了しています。

同時期には MTB 系ブランド grunge (グランジ) から立て続けに 4 モデルのフラットペダルを発表。踏み面の広い割り出し「CNC ペダル」、新開発の Small ベアリングを用いボディーにアルミとマグネシウムをそれぞれ採用した 2 種類の「ウィングペダル」、幅の狭い「ローカルペダル」など、形状にこだわり MTB 系フラットペダルの選択肢を広げました。



◀ 2014 年に意匠登録を取得した Veno (ヴェノ) ブランドのファーストモデル「トランスペダル」(Vol.11 にて掲載) は、革靴通勤への要望によるユニークな設計。

◀ 2016 年には grunge から約 10 年振りのオリジナルデザイン

「フィフティ (Fifty) ペダル」を発表。クランク取付面からペダル中心位置を 50mm と短く設定、足幅の小さなライダーのペダリングを快適に安定させ、ピンの高さも調整可能にするなどの工夫がもたらされた Small デザインの薄い CNC ペダルです。

番外編「48 シリーズ」

ペダルシャフトを通常より 5mm 短くし Q ファクターを狭める効果を発揮する「48 シリーズ」(Vol.9 に掲載) は 2012 年から 2019 年までに全 6 モデルを発表しています。既存モデルに付加を与えた典型的な製品となっています。

「FP スポットクリップレス 48 ペダル」はフットプリント系の付加モデルです。

◆ペダルに限らず商品には「機能・デザイン・価格」の 3 つのバランスが求められます。どこかに特化し過ぎても良い商品にはなりませんが、自転車は人力の乗り物ですから、ペダルでもやはり肝心要となるのは機能面です。それは特に回転部分と足との接触連携部分。とりわけフラット系ペダルでの接触感は適当そうで奥深いものです。

開発では、例えばハンドルであればグリップとバーテープの無い素手、サドルであればパッドの無い出来る限り薄いパンツのみ、ペダル (フラット系) であれば外せるピンは外して素足でのテストが必要と考えます。その先に、間を取り持ってくれるサポート類を追加し必要最低限の機能も追加します。デザインと価格を機能と調和させることは難しく、商品化には忍耐力が問われます。

◎フラット系ペダルを 2 種類開発中です。発表時期はまだ未定ですが、共感していただけるような 3 つのバランスを目指しております。「製品化には至らなかったシリーズ」には掲載されませんように…。

